

熊本県の歯科保健

～健康長寿の実現に向けて～

熊本県 健康福祉部健康局 健康づくり推進課
参事 井上秀代

前回は、歯と口腔の健康が全身の健康と関係することから、医科歯科連携で取り組んでいる糖尿病対策について紹介しました。

今回は、がん治療における医療連携について紹介します。



第5回 がん治療における医療連携について

🌿 がん治療と口腔の関係について

がんは、昭和56年以降、日本人の死亡原因の第1位となっています。現在のがん治療においては、質の高い医療に加えて、苦痛をできるだけ緩和し、治療中から治療後も含めて患者のQOLを可能な限り良好に維持することが求められています。

がん治療では、口腔合併症（口腔粘膜症、口腔乾燥症など）など口腔のトラブルが高い頻度で起こることが報告されています。また、痛みだけでなく、食事や会話を妨げ、しばしばこのトラブルが原因で入院が長引いたり、がん治療自体に影響が出ることもあります。

歯科保健医療において、がん治療における口腔の衛生状況が、がん治療の経過や予後に大きく関わることで種々の研究から明らかになり、その支持療法の一つとして、歯科治療や口腔ケアが位置付けられています。

🌿 がん対策における医科歯科連携の取り組み

本県では、「第2次がん対策推進計画」、「第3次熊本県歯科保健医療計画」に基づき、切れ目のない保健医療サービスを県民に提供するために、熊本県歯科医師会に協力いただき、がん対策の一環として、がん治療における医科歯科連携を推進しています。

がん治療前から「がんを治療する病院」と「歯科診療所」が連携して、がん患者に対するがん治療の術前・術中・術後の口腔ケアおよび歯科医療体制を進めるとともに、がん患者が安心して歯科治療を受けることができる診療体制の確立を進めています。

<がん対策における医科歯科連携状況（平成27年8月末現在）>

- がん医科歯科連携登録歯科医師 443名
- がん医科歯科連携病院数 196カ所
- 紹介患者数 1,374名

種別	連携1	連携2			連携3	その他
	手術前連携	化学療法	頭頸部放射線	B P [*]	緩和ケア	
紹介患者数	296	460	32	35	15	23

連携1：術前患者を対象とした口腔ケア（周術期）

連携2：がん化学療法、頭頸部放射線治療における歯科治療と口腔ケア

連携3：がん緩和医療における口腔ケア

※B P（ビスフォスフォネート製剤の薬剤）とは、骨粗鬆症^{しょう}の治療薬のこと。

🌿 がん対策への歯科からのアプローチ

がん診療病院と連携歯科医院では、がん患者に対するがん治療の術前・術中・術後の口腔ケアおよび歯科治療体制の構築を進めています。

【流れ】

手術前

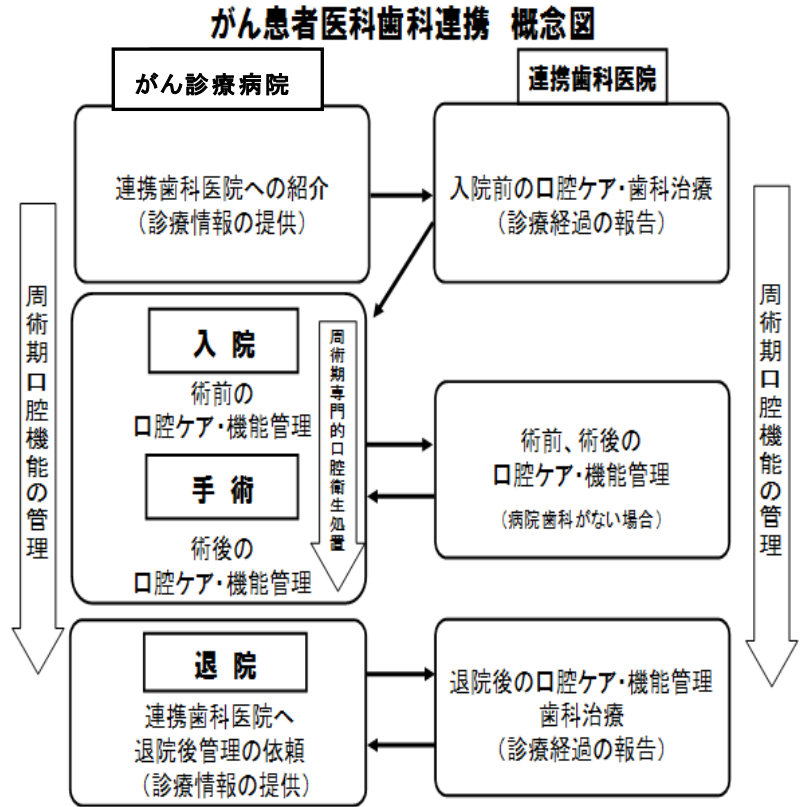
- ・担当医が「手術前口腔ケア」の必要性について説明
- ・受診する連携歯科医院の決定
- ・手術前の口腔ケア・歯科治療の実施

入院中

- ・院内で継続した口腔ケアを実施
- ・口腔合併症や緊急の歯科処置への対応

退院

- ・退院後・通院治療後も連携歯科医院による口腔管理の継続および必要な歯科処置



🌿 がん対策における医科歯科連携の効果

がん対策における医科歯科連携の取り組みにより、以下の効果が期待できることが明らかになってきています。

- ・口腔ケアを行うことで口腔内細菌が減少し、口腔内細菌による創部感染のリスクが減少する。
- ・手術後の患者の死亡につながる要因の一つとして「誤嚥性肺炎」があるが、術前・術中の口腔ケアにより術後肺炎の発症が減少する。
- ・継続した口腔ケアや口腔乾燥予防を実施することで、口腔内の衛生が保たれ、口腔合併症のリスクが軽減する。
- ・口腔粘膜異常や動揺歯への対応、義歯調整等の口腔機能の管理を行うことによって、早期経口摂取の可能性が見込まれ、術後の体力の早期回復、早期退院・在院日数の削減につながる。

🌿 今後のがん対策における医科歯科連携

現在、がん診療病院 23 カ所と医科歯科連携を実施しており、年々、患者紹介数は増加しています。

本県のように県全体で行われているところは非常に少なく、熊本県歯科医師会および病院の協力が積極的に行われていることが要因となり、今では全国でトップレベルの連携実績が挙げられており、全国のがん連携のモデル的事業となりつつあります。

年間のがん登録患者数や手術件数から考えれば、もっと多くの方が医科歯科連携を必要としていると思われ、今後も継続した事業展開が必要であると考えています。

(参考) がん患者医科歯科医療連携登録歯科医院については、熊本県歯科医師会のHPに掲載してあります。(http://www.kuma8020.com/)